

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度 第1回たかまつ創生総合戦略推進懇談会
開 催 日 時	令和元年8月27日（火）18時30分～20時20分
開 催 場 所	高松市役所 13階 大会議室
議 題	(1) 地方創生関係交付金等に関する効果検証について (2) たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について (3) 「たかまつ人口ビジョン 令和元年度改定版（仮称）」骨子案について (4) 「第2期たかまつ創生総合戦略（仮称）」骨子案について (5) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員 (15名)	佃会長、野田副会長、岡崎委員、久保委員、桑井委員、桑島委員、杉委員、對馬委員、徳倉委員、中橋委員、西森委員、野崎委員、三井委員、山田委員、井手下オブザーバー
傍 聴 者	1人（定員10人）
担当課及び 連絡先	政策課 839-2135

会議の経過及び結果

(1) 地方創生関係交付金等に関する効果検証について

事務局から、地方創生関係交付金等を活用した事業について、各委員からの質問への回答を中心に説明し、効果検証を実施した。

主な意見

推進交付金対象事業No. 1 : 「たかまつ移住応援隊」を軸とした事業展開による移住促進

(委員)

東京で高松市の実施する移住希望者向けのイベントに参加したときに感じたが、他の自治体と比較して、若い層の集客がある。これは、移住者向けのイベントをコーディネートできる団体に協力を依頼したり、「高松」について参加者が話し合えたりする内容となっているためで、非常に評価すべきところだ。

一方、高松で開催する、移住者を対象とした交流会についてはあまりうまく機能していないというのが、応援隊のリーダーが感じているところである。

自治体が仕事の斡旋を行うのは非常に難しいところではあるが、他市を参考にこれらのことも政策に取り入れていただきたい。

(委員)

首都圏では雇用情勢が好調で売り手市場ということもあるが、早期に離職する人が多い状態である。現在、経済産業省と厚生労働省とで、そのような早期離職者を、地方の中小企業にマッチングしていこうというような取組をしている。これは、1ヶ所に求人情報を送付すれば、全国の求人メディアに情報が掲載されるという仕組みである。

企業側を支援してくれるような仕組みを構築すれば、このような仕組みもうまく使えるかと思う。

(委員)

現在、全国的に IT 技術者が非常に枯渇している。この定住という仕組みの中に、IT 技術者の定住というものを検討していただきたい。

(委員)

徳島県の神山町には、自然発生的に芸術家や、IT 技術者も多く移住している。そのようなコミュニティを作るというものの有効かと考える。

(委員)

神山町の場合は、そこでの過ごし方に憧れ、移住する方が増えている。

高松でも、地域ごとの特色を打ち出すことが、今後一つの魅力になると思う。ただし、そこに人や中心となる企業が必要になってくるのも事実であり、それを産官学がどのようにコミュニティを作っていくのかという点は、検討しても良いと思われる。

(会長)

神山町は、これまで20年以上培ってきたストーリーが今、展開しているということなので、高松市もストーリー性のあるもの、例えば瀬戸内国際芸術祭がきっかけとなって、情報産業ができるということも考えられると思う。

(委員)

モデルケースの事例でいうと、男木島と仏生山地区には、非常にユニークで創造性豊かな人々が集まって住んでいるという事例があるので、それを参考にしたら良いと思う。

効果検証

推進交付金対象事業No.1：「たかまつ移住応援隊」を軸とした事業展開による移住促進事業

K P I について

(会長)

本事業は有効であったと評価してよろしいか。

(各委員)

了承。

推進交付金対象事業No.2：「高松盆栽の郷」構想を中心とした盆栽と花き文化の振興対策

K P I について

(会長)

本事業は有効であったと評価してよろしいか。

(各委員)

了承。

推進交付金対象事業No.3：共生社会ホストタウン登録を契機としたユニバーサルデザインのまちづくり推進事業

K P I について

(会長)

本事業は有効であったと評価してよろしいか。

(各委員)

了承。

(会長)

こども未来館わくわく体験事業のK P I の一つである「合

計特殊出生率」についてはデータが出ていないということ、
サンポート高松トライアスロン大会開催事業については雨で
中止であったことを加味して検討いただきたい。

応援税制対象事業No.1：こども未来館わくわく体験事業

K P I について

(会長)

本事業は有効ということによろしいか。

(各委員)

了承。

**応援税制対象事業No.2：サンポート高松トライアスロン大会
開催事業**

K P I について

(会長)

本事業は有効ということによろしいか。

(各委員)

了承。

**応援税制対象事業No.3：高松産ごじまん品6次産業化等支援
事業**

K P I について

(会長)

本事業は有効ということによろしいか。

(各委員)

了承。

(会長)

この議題については、すべて有効と認めて頂いた。

(2) たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について

事務局から、PDCA サイクルによるたかまつ創生総合戦略の効果検証について、事前に質問のあった事業を中心に説明した。

※各委員へ総合戦略掲載の47施策のうち平成30年度のKPIの実績数値が平成30年度の目標値の90%を下回った13施策に対する意見等聴取書類を事前送付

主な意見

(施策名：観光情報の効果的発信)

(委員)

「エキスペリエンス高松」という観光情報発信サイトは、高松で、「どのような場所に行って」、「どのようなお店に行って」という情報が分かりやすく掲載されており、英語表記もあるので、海外の方の利用も非常に多い。また、このサイトを見れば高松の文化も分かるので、海外の方にもおすすめしている。

通常、市が運営するサイトでは、公共施設しか扱えないものが多いが、一歩踏み込んで、民間のお店を紹介するのは、自治体としては思い切った施策であり、この施策が県外や外国の方に、とても受けている重要なポイントなので、今後もぜひ続けていただきたい。

(会長)

現代は、海外も含めて、ほとんどネットから情報を得る時代なので、そういう意味では市も頑張っているという印象を受けるので、引き続き頑張っていただきたい。

(副会長)

日本人のみならず、外国の観光客も多くも来るということは瀬戸内国際芸術祭の時に実感した。

外国の方に、高松に観光に来てもらうために大事なことは、手を添え、心を添えというソフト面が、非常に大事でないかと考える。

(施策名：中央商店街の活性化)

(委員)

観光と商店街の活性化に絡めての話となるが、商店街のイベントに参加した際、瀬戸内国際芸術祭の夏会期最終日だということもあり、海外の方も含めて、県内外からの観光客が非常に多かった。その中で、「高松の伝統のものを買いたい」、「高松に来た記念に残したい」という話をたくさん聞いた。また、「商店街ではなかなかそういうところが見つけれなかった。」「商店街を歩いて買い物をし、思い出を買って帰りたい」という希望者が多いにもかかわらず、その案内が難しかったと記憶している。また、伝統工芸である漆器のことやその他の土産物のことを情報提供してくれる所があまりないということも問題だ。

先日のクルーズ客船が寄港したときも同様だったようで、観光と買い物を少し絡めて PR ができるようになればいいと期待する。

(委員)

商店街の活性化を検討するには、実際どのような人がどのようなものを買うのかというビックデータがないと議論のしようがない。

各商店街と協力して、インバウンドの人が買うのか地元の人が買うのか、どのようなものを買うのかという分析をしないといけない。元データを分析できなければ活性化の対策が

できない。このビックデータを得る仕組みというものを考えて
いただきたい。

(会長)

高松市ではスマートシティということでビッグデータを扱
えるような取組を始めていて、様々な形でデータが使えるよ
うな事業を行っている。その中で、商店街でもこれらの行動
分析をビッグデータにすることを進めており、実証実験等を行
うと思われるので、期待していただきたい。高松市は、商
店街を含めて人が集まってきているので、今後は、インター
ネットショッピングで、ほとんどの物が手に入るという時代
の中で、商店街を訪れた人たちへの買い物をどう捉えていく
のかというのは、これからの課題である。

(施策名：中小企業の育成と振興)

(委員)

人材不足が一番の問題となっている。高齢者、女性、外国
人などの活躍が期待されているが、外国人を受け入れる体制
が必要である。

(施策名：選ばれる地域づくりの推進)

(委員)

地元出身の県外大学生にいかに帰って来てもらうか、IT が
進み、場所にとらわれない仕事も増えている中で、都会で就
職し、そこでノウハウを得た人をどのように呼び戻すかとい
う点で、他の自治体で行っている県外学生が地元企業にイン
ターンシップする際に旅費を補助する制度が参考になる。公
の機関が中小企業に対し、合同のインターンシップ合宿や面
接の機会をサポートすることが有効である。

子どもの頃から郷土愛を感じられる機会づくりが大事であ
る。

(会長)

市と県が連携して県外に流出した若者らが、地元に戻ってくるような取組が大事である。郷土愛については、菊池寛に関する取組みを行っているが、教育委員会も含めて考える必要がある。

(施策名：観光資源の活用と創出)

(委員)

高松まつりの踊り子連に関して、最近、脱退する連も増えてきており、非常に残念だと感じている。

県外に出ても参加したいというお祭りは、人が集まるきっかけづくりとなり、そういう意味でお祭りは非常に魅力的で大事だと考える。また、一般の観客のみならず、市内外から祭りに参加することで、さらに祭りの活性化に繋がり、高松を知るきっかけになると思われるので、重点的にやっていただきたい。

(施策名：生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病等）対策の推進)

(委員)

がん検診について、以前に比べて少なくなったが、婦人科に行くことに、まだまだ抵抗を感じる人が多いようだ。プライバシー的なところに配慮した、気軽に受けられるような体制や、もう少し身近に感じられるような施策などができる、受検率も少しずつでも増えていくと思う。

(施策名：トップスポーツの振興)

(委員)

指標となっている観戦者数は、4チームのトータルの数となっているが、スポーツごとの人数は分かるのか。

(事務局)

正確な数字は持ち合わせていないが、サッカーが 1 試合当たり 3 千人弱ぐらい、バスケットが 1 千人弱、野球は 1 千人を切るぐらいと把握している。アイスホッケーはアリーナの観客席が少ないが概ね埋まっている状況である。

(委員)

野球の香川オリーブガイナースの観戦に時々行くが、正直、観客の数は増えなくて、少し寂しい感じがしている。試合ごとに様々な工夫をしており、ソフト面では結構頑張っているように感じる。球場も古くなっているので、ハード面の整備を考えていただきたい。

(施策名：健やかな成長を促す学びへの支援)

(委員)

こども未来館は木のおもちゃやプラネタリウムなどがありよく考えられた子ども向け施設である。

(施策名：ユニバーサルデザインの普及・啓発)

(委員)

さぬきこどもの国では、外国人のインバウンドについて正確な数字ではないが、今年度の来場者は昨年度よりも単純に倍、増えている。

そのような中で、特に最近問題なのが、英語が通じない外国人観光客が増えていることである。今まで何とかコミュニケーションを図ってきたが、今年に入って言葉が通じないためにコミュニケーションを図ることが難しいケースが多く見受けられ、課題となっている。

また、授乳室に男性が入ってくるのに違和感を感じる女性がいるようだ。施設側としては、ファミリーで使用する想定であったが、そこを明確に表示してなかったということが一因であ

る。最近では父親が子どもを連れてくるケースが増えており、父親がオムツ替えやミルクをあげることもある。男性が育児に参加すると、今まで問題にならなかったことが問題になるということがあり、男性の育児参加のために環境を整える必要性を感じている。

(委員)

車関係の事業を行っているが、今年度初めてフィリピンからの海外研修生2名を受け入れた。また、ベトナム人を1名正社員として採用した。高松でも若い外国人労働者を見かけるようになった。

(会長)

環境の変化への対応は、公共機関がやっていかなければいけない部分が多いと思う。

(施策名：交流・定住人口の拡大)

(委員)

一度県外に出ても、いかに地元に戻ってきて、仕事をしてもらうかが大事である。

毎年、成人式で100人位アンケートを行っており、その9割位が「香川県が大好き」という結果であり、また、「できれば地元で就職したい」という人が圧倒的に多いが、実際には、「県内では、なかなか自分の思う企業に出会わない」、「自分の思っている仕事が見つからない」という意見が多く、結果的に東京で就職してしまう人がいるので、そのあたりのミスマッチをいかに無くすかが重要である。県や市でUターンなどの移住施策に取り組んでいるが、費用面での補助なども検討してミスマッチを無くす努力をしていただきたい。

交流人口については、瀬戸内国際芸術祭やサマーナイトフ

エスティバルなどたくさん盛り上がっている。いろんな人が個々の力で拡げている。

(会長)

委員から出た意見を事業の中で反映して頂きたい。

(3) 「たかまつ人口ビジョン 令和元年度改訂版 (仮称)」 骨子案について

(4) 「第2期たかまつ創生総合戦略(仮称)」 骨子案 について

事務局から、議題の各骨子案の概要について説明をし、発言を求めた。

主な意見

(委員)

SDGs のアイコンを掲載するとあるが、国では、SDGs は 2030 年の達成度を報告することとなっている。高松市がこのアイコンを掲載する場合に、達成度との関連という面で、創生総合戦略での指標の設定が SDGs の達成度に寄与していると表現をするのか、この事業は SDGs のどの考えに該当するのかと記載するだけなのか、考えがあればお聞かせ願いたい。

(事務局)

SDGs に関しては、国連サミットで採択された国際目標を、国や各市町村が同じ方向を向いていくということが示されている。市民の皆様に SDGs のことがあまり知られていない、また、なかなか触れる機会がないという指摘を受けることがよくあるが、創生総合戦略にアイコンを掲載することで、高松市として、SDGs に取り組んでいることを市民の方々に知っていただくとともに、SDGs についても知っていただく、そういった PR 効果をねらっているものである。

(会長)

SDGs をどの部分で、どう使うかということもあるので、掲載する場合は、慎重にすべきである。例えば最初の説明に盛り込むことで足りるなら、そういう方法もあるかと思うが、いずれにしても、SDGs を掲載する意味をしっかりと説明できないといけない。

(副会長)

本市人口の将来展望をみると、他の市町村と比べて比較的、高松の人口減少率は低いが、目標人口の達成の見通しは。

(事務局)

確かに、県内の他市町に比べて高松市の減少率は低い状況である。現行の人口ビジョンどおりの曲線で推移しているので、今のところはある程度、人口は維持していけているという状況である。

(会長)

様々な目標値に対する意見を踏まえ、目的・目標をしっかりと考え「たかまつ人口ビジョン改訂版（仮称）」や「第 2 期たかまつ創生総合戦略（仮称）」の素案に少しでも実質的な内容が盛り込めるとよいと考える。

(5) その他について

(事務局)

今年度は、「たかまつ人口ビジョン改訂版（仮称）」と「第 2 期たかまつ創生総合戦略（仮称）」を取りまとめる年となっている。

今後、本日いただいた意見等も参考に、「たかまつ人口ビジョン改訂版（仮称）」と「第 2 期たかまつ創生総合戦略（仮称）」の素案を取りまとめて、次回の懇談会で意見等を承る

予定である。

なお、次回の懇談会については、1 月頃を予定している。

また、「たかまつ人口ビジョン改訂版（仮称）」及び「第 2 期たかまつ創生総合戦略（仮称）」の骨子案について、本日時間の関係で伺えなかった意見等がある場合は、後日、事務局まで提出いただきたい。

以上をもって、本日の会議を終了する。

（閉会）